



プロバスだより

2019年4月11日発行

第281号

東京八王子プロバスクラブ

編集・発行：情報委員会

創立 1995年 10月 18日

2018～19年度 テーマ

語り合おう！そして楽しく豊かなクラブライフを！

第 281 回例会

日 時：平成 31 年 3 月 14 日(木) 11:30～13:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：46 名 出席率 75.4%

(会員総数 63 名 欠席 18 名)

1. 開 会 野口例会副委員長

本日は池田委員長の代行として副委員長の野口が司会を務めます。

まず第 281 回例会の開催告知と資料の確認。

2. 会長挨拶 馬場会長

皆様、こんにちは。春の嵐が吹きすっかり春本番となりました。その一方では花粉の飛散量の多さには悩まされています。



生涯学習サロンの開講式は、興味深いテーマと講師の熱気溢れる講演によって上々のスタートとなりました。地域奉

仕委員会を中心とする関連の皆様の努力に感謝申し上げます。閉講式まで会員全員によるご支援ご協力をお願いいたします。

2月22日には、「はやぶさ2」が3億キロ彼方の小惑星「リュウグウ」へのタッチダウンに成功しました。「宇宙の学校」を支援する我がクラブとしても、科学技術の素晴らしい発展に拍手を送りたいと存じます。子ども達の夢も膨らむことでしょう。

本日の卓話では、八王子国際協会理事長の平野様からお話を伺います。日頃縁遠い八王子の海外事情がテーマであり、興味を持って拝聴をお願いします。

本日は例会の欠席者が18名にも達していると聞きました。健康上の問題でなければ良いかと懸念して

おります。3月例会にはご元気に出席されることを祈っています。

3. ハッピーコイン披露

田中交流担当からハッピーコイン 10 件の披露がありました。(5 ページに掲載)

4. バースデーカードの贈呈

3月生まれの会員に、池田会員手作りのバースデーカードが馬場会長から贈られた。



左から田中・杉田・萩島・根本(照)・阿部・大串の各会員(敬称略)(竹元会員は欠席)

5. 卓 話

「八王子国際協会の主な活動について」

八王子国際協会 理事長 平野吉三様

今、八王子市内に住む外国人は約 12,700 人で、留



学生は約 3,700 人です。国の数では 102 か国に及んでいます。

日本に在住する外国人の数は 238 万人で総人口の 1.9%ですが、この度の入国管法改正により今後 5 年間で 35～40 万人の外国人が増え、外国人市民と共に生きる時代を創出していかなければなりません。

そんな時代に先駆け、今から 10 年前に八王子国際協

会が発足しました。現在 12 の委員会があり主な活動内容をご紹介します。

外国人のためのサポートデスクでは事務局で随時相談を受けています。年間 1,000 件を超える相談の中には、在留資格、公的手続き、労働環境、病気、子どもの学習など多岐にわたっていて、複雑な問題は弁護士や司法書士にお願いしています。

医療ボランティア委員会は語学に精通した会員の集まりで、英語以外の言語も扱っており、急患の場合病院まで同行し通訳をすることもあります。専門用語の研修にも力を入れ対応の幅を広げています。また、帯同された子どもたちの親には日本語が十分でなく家庭学習が思うようにいかないことが多いです。

学習支援委員会では小中生の日本語や学習の面倒を見て、将来夢をもって日本の国で生活できる力をつけてやりたいと熱心に取り組んでいます。

自然災害も日本に住む外国人にとっては心配です。**防災・災害委員会**では外国人市民の安全・安心のため、自治会・消防署等と連携して防災訓練も年に数回実施しています。また数か国語の「災害ヘルプカード」も配布しています。

年に一度秋に行う**国際交流フェスティバル**は身近な外国人から文化を学び相互の利益につながる多彩なイベントです。皆さんもぜひ今年のフェスティバルにお出でかけください。

以上委員会活動の一部を紹介いたしましたが、国際協会は会員のホスピタリティ精神に支えられながら外国人市民に安心して住んでもらえる社会を志しています。多くの人はいずれ母国に帰りますが、縁があって住んだ日本(八王子)にどのような思いで戻っていくのか。「温かい市民の心」に触れたことで新たな価値観や生き方に目覚め、市民外交として活躍してくれることを期待しているのです。

高齢化社会に向かう日本が外国人を単なる使い捨て労働力や景気の調整弁としてではなく、希望が叶えられる生活者として、世界の人たちから選ばれる日本になることを願っており、皆さんもぜひ会員になって力をお貸してください。

ご清聴ありがとうございました。

6. 幹事報告

寺田 幹事

幹事からの報告は3件です。

1) 個人情報管理(氏名、生年月日、電話番号、会社における職位や所属、映像、メールアドレスなど)について過去に情報委員会の資料に残っていたようですが、整理券発送迄に関する個人情報管理について述べられた物でありましたので、今回見直しをして現在の状況にあった物を作成しました。個人情報保護法の対象になるのは5,000人を超える事業者が対象になりますので、当クラブは法的(刑事的)には対象外となるでしょうが、個人情報を本人の承認無く第三者へ出すことは民事的には問題になりますので、「個人情報に対する基本方針」を作成し、しっかり取り組んでいることをアピールし、皆様に認識としてお持ち頂きたいと言うことで作成しました。内容はごく一般的な物としました。

① 事業活動に当たって、氏名、メールアドレス、住所、TELなど、個人を特定できる情報を取得する際は、利用目的を具体的に特定し、本人へ通知します。

② 個人情報提供者から頂いた個人情報を、事業目的の為に配送業者・提携事業者などへ必要な情報を伝える場合や、法令上の要請があった場合を除いて、個人情報を第三者へ開示することはありません。

③ 個人情報は取り扱い担当部署を決め厳重に管理します。

④ 個人情報提供者は、登録された個人情報の内容の確認・修正および更新、削除、利用、開示の停止を当クラブに求めることができます。

個人情報の内容の確認・修正および更新、削除、利用、開示の停止のご請求に当たっては窓口の幹事までご連絡ください。

これまでに資料保管管理、備品保管管理、印刷等の役割分担等を決めてきましたので、これらを纏めた「諸規程とマニュアル集」を4月例会までに各理事に配布すると共に、レターケースに入れます。但し無断持ち出しは禁止です。

2) 健康フェスタが5月19日(日)エスフォルタア

リーナで開催されます。参加要請者は 8 人です。各委員会から選出をして頂き、3 月 28 日の学習サロンの時迄に副幹事、又は幹事までお知らせ下さい。参加者へは大澤副幹事から 5 月 11 日以降連絡をします。3) 整理箱にある A4 封筒などの消耗品を使用するときに、残りが少なくなったら、速やかに担当者まで連絡をして下さい。整理箱には該当品の担当者名が記入されていますので、連絡を宜しくお願いします。

7. 各委員会報告

(1) 例会委員会

野口副委員長

本日の例会の出席状況は、出席 46 名・欠席 18 名で出席率は 71.9%でした。

(2) 情報委員会

持田委員長

プロバス日より 280 号を配布いたしました、今月号は私が編集担当でした。今月の寄稿は岡部会員から先月に引き続き寄稿を頂きました。ありがとうございました。また、HP への 2 月 1 か月間のアクセス回数は 217 回でした。最近では 200 回くらいで推移しております。

(3) 会員委員会

岡本委員長

① 新規会員増員およびPRに関するイベントに参加。



八王子市民活動協議会主催、第 22 回「お父さんお帰りなさい」のイベントが 3 月 9 日（土）13 時から八王子労政会館において開催された。当 PC も参加し、PR と新会員獲得活動をいたしました。「私が見つけた地域の活動」

と題して 3 名の方々が講演、石森市長のご挨拶があり、後に交流会が開催され、会員委員会から大串会員、武田会員、塚本会員の参加協力を頂きました。

当日の来場者は出展会員を含めて 200 名でした。

② 退会に関する件

志村 高会員（情報委）より一身上の都合にて退会の意向があり、理事にて了承を得ました。

③ 3 月度総会員数 63 名、うち休会会員 2 名（佐々木

研吾、濱野幸雄会員）、退会 1 名

(4) 研修委員会

有田委員長

① 今後の卓話についてのお知らせ

4 月： 間宮会員にお願いします。

5 月： 生涯学習サロン閉講式のため行いません。

6 月： 自主学習会「八王子老年研究会」の総仕上げとして特別講演会を計画。

講師として桜美林大学の芳賀教授をお招きします。

② 自主学習会「教育問題研究会」活動報告 深谷正徳

「落伍者をつくらない八王子の学校教育のために」をテーマに自主学習会を行っています。学校での活動は学年末の行事も重なり、4 月以降になります。そのために今は無料塾でボランティアとして中学生の指導にあたっています。その中学生が最も喜んで取り組んでいるのが都道府県名や国名を白地図に書き込みながら覚えていく学習です。無料塾では 102 か国を覚えた生徒もいます。国名に至っては 10 か国も位置を知っていれば優秀の部類だと思います。

社会科の学習では自分が住んでいる地域と全国各地とのつながり、日本と世界の各国とのつながりを学びます。ひとりでも多くの人に関心を持っていただきたいものです。

(5) 地域奉仕委員会

一瀬委員長

本年度の生涯学習サロン一般会員は最終的に 113 名の参加を得ることができました。

コアのリピーターが激減する中、プロバスの皆様には新規の会員の勧誘、獲得に本当にお世話になりました。先月 2 月 21 日には開講式・特別講話を無事に終え、本日からいよいよサロンの第 1 週が始まります。5 月 9 日の閉講式・さよならパーティまで話し手の皆さまはじめ、受付担当の皆さま今後ともよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

まずまずのスタートは切れたとは思いますが、いろいろな意味で本生涯学習サロンも転換点に来ているという思いが強くなります。きちっと総括をし、次につなげたいと考えます。また野外サロン、おかげさまでバス補助席が必要などところまで応募いただきましたので募集を停止します。再募集は様子見て判断いたします。ありがとうございました。

(6) 交流担当

田中交流担当

他クラブとの交流の一つに「クラブだより」の交換があることは先月も報告しましたが、送られてきたものは例会で回覧中です。他に多くのクラブでホームページもお持ちですので、是非当クラブのホームページを開いたついでに一寸覗いてみてください。

(7) 「宇宙の学校」後援会報告 後援会長 杉山友一

今日は「宇宙の学校」後援会から、お手許に30年度の「宇宙の学校」レポートをお届けいたしましたので一言添えさせていただきます。このレポート発行の目的は、一つ目は文字通り事業の結果報告、二つ目は広く多くの方の目に触れて頂く広報効果、そして三つ目は、特別協賛企業のスリーボンドさんをはじめ、1口1万円の維持会員をお願いしている約40口の市内の法人・団体・個人の方々への継続支援要請のアピールであります。「宇宙の学校」も9年目ともなりますと毎年のことですから、なかなかお集めは大変でございますが、今年も同志の方々の協力を頂きながら精々頑張ってお参りますので、平成31年度の「宇宙の学校」をどうぞよろしくお願いいたします。当レポートの中身については運営本部長の下山さんに触れていただきます。以上です。

「宇宙の学校」報告

下山PJリーダー

プロバス便り 278号の下田サブリーダーの報告通り、延べ274組の参加をもって終えました。特徴的にはKU-MA講師を二人体制にして、参加者に対するきめ細かな指導ができたこと、合わせて大学生ボランティアの延べ121名という協力が有って、質的に充実したと思っています。その結果家庭学習発表の日の参加率も例年より多く、学習内容も発表に意欲も向上したように感じました。又宇宙との関連が少ないと感じる…という意見があり、JAXAから講師をお願いし、宇宙の話も入れました。子供の活発な質問などあり、成功したと思っていますが、アンケートではあまり順位の高い評価ではありませんでした。このように質の面では進歩しましたが、しかし一方では応募者に対して募集定員が不足している状態は解消できませんでした。

次年度はこの対策として、一つの会場を変更し(八

王子学園) 募集人員を20%ほど増やすことができそうです。

このため新年度では、ボランティアの増員、初体験のボランティアのためのサポートなど、プロバスクラブで「宇宙の学校」を支援していただいている経験者の皆様、宇宙教育指導者セミナー終了の方など皆さんには、旧倍の御協力を得ねばなりません。今年度もよろしく願いしてご報告とします。

(8) 同好会報告他 掲示板に掲示

ゴルフ同好会:5月17日(金) 三多摩ゴルフコンペ。
5月24日(金) 八王子プロバスコンペ。共にGMGにて。

8. プロバス賛歌斉唱



9. 閉会

飯田副会長



本日は第1週のサロンが開催されるため、例会も早めに終了しました。ご協力ありがとうございました。サロン担当の方についてはよろしくご対応をお願い致します。

本日の卓話は八王子国際協会の平野吉三理事長様のご講演をいただきました。ありがとうございました。今後とも当クラブとしてもご支援いただきながら何かしらご協力できればよいと考えております。

これを持ちまして3月の例会を終了させていただきます。4月の例会は第3週のサロンがありますので11時30分の開始です。お間違えないように。

ハッピーコイン

● ひな祭りが過ぎ、啓蟄の頃から暖かくなり冬眠していた生き物が目を覚ます。庭にパンジー、沈丁花など開花し春の訪れ。弥生は私の生まれた月 HAPPY！！

萩島 靖久

● 先月の生涯学習サロン開講式、特別講話には多くの会員の皆さまに参加頂きありがとうございました。本日よりサロン第1週が始まります。その運営に全力をあげてまいります。一瀬 明

● 感情悪化の韓国へ、17日から行ってきます。PM2.5もすごいようでホテルでのんびり。

野口 浩平

● 2月23日から3月初めまで、ベトナムのホーチミン、ハノイ、カンボジアのシエムリアップにあるアンコール遺跡群への観光をしてきました。ハノイでは米朝会談のあおりを受け観光予定地の変更や、フライト時刻遅れの不具合がありましたが、観光場所の素晴らしさに感動してきました。寺田 昌彦

● 三女の結婚話が進んで来ました。杉田 信夫

● 本日、「宇宙の学校」後援会より、30年度の「宇宙の学校」レポートをお届けいたしました。

杉山 友一

● 腹切り4回、ワンラ（完了）、ワンラ！やっど、「水」に入れます。夢は外房遠泳、勿論、水府流太田派大抜手（おおぬきて）で。山形 忠顯

● 第23回プロバスクラブ生涯学習サロンがスタートしました。開講式には多くの参加者があり、開講式の講演も聞き入っていました。うれしいことです。

飯田 富美子

● 「はやぶさ2」が小惑星「リュウグウ」に見事に着陸！ 科学技術の進歩に感激です。

馬場 征彦

● 3月3日の誕生日が過ぎた直後の入会だったので、池田さんのバースデーカードをもらうまでに1年かかり、恨めしく横目で見ていたことでした。今日は9枚目を頂けそうで、感謝。田中 信昭

寄稿

「170歳二人展」を振り返る

矢島 一雄

昨年秋に開催した170歳二人展は、そのタイトルから当初、親子の展覧会なのか、いや兄弟なのかと、色々憶測を呼んだようでしたが、実は、昨年共に85歳迎えた私共夫婦が、今も元気で続けている写真



や絵の趣味を通じた作品を、この機会に多くの方々に見ていただき、ご意見などもお聞かせ願えればと催した共同展でした。

しかし、二人とも展覧会と云えば、せいぜい所属する会の合同展にメンバーの一人として作品を出品するぐらいの経験があるだけで、ましてや、単独で展覧会を開催する経験など全く無く、全てが手さぐりの状態からのスタートとなりました。

加えて、果たして素人の趣味の作品展に何人の方々会場に足を運んでもらえるのかと、不安を抱えての開催でしたが、結果的には、そんな不安を振り払うように、6日間の期間を通じて、プロバスクラブの皆様を始め、500人にも及ぶ多くの方々に会場を訪れていただき、好評の内に幕を閉じることが出来ました。

これも、二人展の立ち上げから、展示の期間を通じて、会場の運営などに携わって頂いた家内の絵仲間の皆様や日頃親しくして頂いている地域の皆様の応援があったればこそと、改めて感謝を申し上げる次第です。

二人展に展示した写真のテーマと

作品を選んだ経緯

そこで、今改めて二人展の作品作りの経過を振り返ってみますと、既に作品が出来上がっていた絵に比べ、写真は何をテーマに、どのような作品を展示したら会場を訪れた方々に満足していただけるのかと、悩みも多く、なかなか作品が定まりませんでした。

そこで、退職後ヒマラヤの峰々を撮り歩いた頃の
写真や72歳を迎えた2005年9月に、史上最高齢の
エベレスト登頂者の三浦雄一郎氏や登山隊の皆様と一
緒に中国側のベースキャンプ迄同行した



際に撮影したエベレストの写真を中心に、山を表現
することに決めて、残されたスペースを10年も前に
写真仲間と訪ねた、紀州串本町の浜に点在する奇岩
群の写真を加えることに決めました。

ここに至って、ようやく写真のコーナーのテーマ
を「山と海」に定め、
数多いフィルムの中からの作品選び
の作業が始まった
のが夏の暑い盛り
の事でした。



小さなフィルムと一日中取り組むことで、眼は霞
んでくるし、首や肩も痛くなる始末に矢張り歳なの
かなと思いつつも、残された少ない日々の事を思
うと息抜きもできませんでした。

ようやく辛い作業から解放されて、作品のフィル
ムをプロラボに持ち込んだものの、焼き付けのやり
直しなどもあって、最終の仕上がりを確認し、作品が
出来上がったのが8月も終わりの頃でした。

これで、一番気になっていた展示用の絵も写真も
作品が揃い、後は名札作りと、当日の飾りつけを残す
だけとなり、ほっと一息つく事が出来ました。

改めて、二人展を振り返り見ると、85歳の節目の
年に、多くの皆様に会場を訪れていただき、素晴らし
い感想や励まし等も頂いて、人間幾つになっても新
しいことに挑戦することの大事さを改めて噛みしめ
ました。

これからも体の動く限り、一層趣味を深め楽しみ
ながら、新しい作品作りに挑戦していきたいと思っ
ております。

俳句同好会便り

私の一句 三月の句会から 河合 和郎

平成の時代が終わる。自然災害に何度も襲われ、経
済の長引く低迷もあった。しかし、戦争のない30年
間として歴史に刻まれるであろう。俳句の作品にも
時代の移ろいを詠んだ句がいくつも。

「はやぶさ」や星を舞台に春の舞ひ 馬場 征彦

世界が注目する「はやぶさ2」の活躍を一句に。龍
宮から玉手箱を無事に持ち帰る朗報が待たれる。

平成(たいらな)る戦なき日々花満ちて 渋谷 文雄

過酷な戦争体験をされた作者が平和の尊さを訴え
る一句。「花満ちて」に平和と希望を託して。

陽は麗ら仔猫臍干し草の上 山形 忠顯

陽の当たる草原で子猫が寝っ転がって腹を見せて
いる。ユーモラスな光景を一句に仕立てた。

明き家にもそこはかとなく梅香る 東山 榮

今、空き家の数が急増しつつある。しかし、主の居
ない庭にも季節が巡れば梅は馥郁と咲き香る。

囀りや木の間隠れの詣で道 矢島 一雄

写真撮影で熊野古道を訪れた時の印象を一句に。
静寂な参道には詣で人の足音と鳥の囀りだけが。

ほぐれつつ身をふるはせて白木蓮 池田ときえ

木蓮は春の代表的な花。その花の咲き初む様子に
焦点を当てた観察眼が鋭い。写生句として秀。

同窓会少年の日のヒヤシンス 田中 信昭

同窓会は青春時代にタイムスリップさせてくれる。
白秋のヒヤシンスの歌に重ねて恋の思い出を。

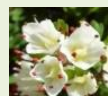
山野草図鑑片手に春探す 飯田富美子

春浅き野を巡る俳人の姿が浮かぶ。忙しい日常だ
からこそこんなゆとりが欲しい。「春探す」に夢が。

鳥帰る平成の世を見納めて 河合 和郎

冬鳥は春になると北の地に帰ってゆく。秋に来る
時には新しい元号になっている。平成最後の北帰行。

編集後記 忙中に華あり



人生はそれ程長くない。今年の春は二度
とない。

《ハナネコノメ (高尾) 3.23 雨》 八木啓充